会員「刊行物」紹介

近年、自分の歩んで来た過去を振り返り、改めてこれからの人生を考えてみたい、自分の研究成果をまとめて世に問いたいと願う人々が増えつゝあります。この度、会員の皆さんの玉稿披露の場として、標記紹介欄を設定することにしました。どうか積極的にこの欄を利用されますようよろしくお願い申し上げます。

編集部

出版書籍

『人生は八十歳から より善く老いん』

大野保治著

わたしはかねがね、人並みの人生と、また人並みの年齢を生き延びたら本望。このように「月並み」のことばかり考えながら、今日まで生きて来た。

どうやらこの存念がかなえられ、人生のたそがれ（黄昏）期ともいうべき八十路にたどり着いた。

十年ほど前から（中略）「自分史」の発行が流行し始めた。その要因の最大のものは、何だったのであろうか。我われの世代は、何と言っても「戦争」という国家的苦難を背負い、とりわけ「（死ぬべかりし）生命の幸運」に思いを致すからではないか、と私は考えている。（序文より）

＊「自分史」入手希望者は大野前会長まで（無料）

元大分大教授の大野保治さん

「より善く老いん」と題名 自分史第1号を発行

幼時回想や論文 希望者に進呈も

大野保治さん

元大分大学教授の大野保治さん（81）＝別府市北中＝がこのほど、自分史の第1号として「人生は八十歳から―より善く老いん」を自費出版した。題名を「より善く」とせず、あえて「善く」という文字を使ったのは、五木寛之著「大河の一滴」に書かれていた仏教の布施行にヒントを得たことと、本能的感性や欲求だけに左右されず理性的な生き方をすべきとの考えから。

あとがきにも「新聞やテレビなどで眼わず破廉恥極まる社会的行為が余りに多すぎる」と大野さん。

布施の意味からも、希望者には無償で提供することにした。「親戚や古くからの友人には贈りましたが、残部があるので希望者には差し上げます」とのこと。

内容は幼児期から朝日村立だった当時の朝日小学校での思い出を、むしろ時代背景に重点を置いて配述した「愛しい『わが生命』よ（幼年期）」と「年のはじめのためし」のほか、「火男火売神社の歴史」、「大分大学道記念講演録「私の法学（法社会学）研究の旅路」、老人問題の話題を多彩。またあとがきを除いて122ページの分量にとどめた。

「続けてもらえるのは100ページがせいぜい。活字ばかりだと読んでもらえないとアドバイスを受けました。2号では青春時代のことと戦争体験、それに仏教のことも取り上げる予定。3号は温泉のことを取り上げたいと思っています」と張り切っている。

その他の項目は次の通り。「日本人と『神さま』」、信仰、「日本人と仏教行事」、「大分合同新聞への投稿『ボ』綴り」、「人生イロイロ」、『患者』もイロイロ」、『言の葉』（言葉のもつ力不思議性」、『大分刑務所』の思い出話」、「朱が入った母の歌稿を発見」、「火男火売神社へみかげ石の『神馬』奉納」、「税務好きすぎる」、小泉総理評と『二かんの奚人』総理評」、「見原莊軒著の『養生訓』に何を学ぶか」、「軍艦旗を仰いで『死に方、用意』の海軍魂」、「日本国憲法三十周年に寄せて」。大野さんの連絡は電話6603336、北中町4組へ。

今日新聞　1月7日（土）夕刊